



ちょっと挑戦・6音

オカリナで「アメイジング・グレイス」を吹こう

「アメイジング・グレイス」のオカリナのドレミ（色分け）、楽譜、運指図、音を聴きながらの練習。

1772年にジョン・ニュートンが書いた賛美歌。流れるような3拍子で、息を一定に保つよい練習になります。使う音は6つ：レ・ミ・ソ・ラ・シ・レ'。

音とリズム



長いブロックは長い音、縦の線は小節の区切りです。

楽譜

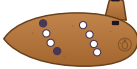
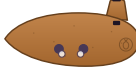
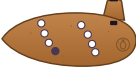
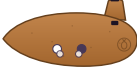


ト音記号の五線譜。各音の下にドレミを書いています。

ドレミで書くと

レ ソ シ ソ シ ラ ソ ミ レ レ ソ シ ソ シ ラ レ'

オカリナの運指

<p>レ・低いレ</p>  <p>表・指穴</p>  <p>裏・親指の穴と小さなサブホール (開ける)</p>	<p>ミ・低いミ</p>  <p>表・指穴</p>  <p>裏・親指の穴と小さなサブホール (開ける)</p>	<p>ソ・ソ</p>  <p>表・指穴</p>  <p>裏・親指の穴と小さなサブホール (開ける)</p>	<p>ラ・ラ</p>  <p>表・指穴</p>  <p>裏・親指の穴と小さなサブホール (開ける)</p>
<p>シ・シ</p>  <p>表・指穴</p>  <p>裏・親指の穴と小さなサブホール (開ける)</p>	<p>レ・高いレ</p>  <p>表・指穴</p>  <p>裏・親指の穴と小さなサブホール (開ける)</p>		

「アメイジング・グレイス」を吹くコツ

- 一音一音、舌でやさしく区切って始めましょう（「トゥー」「ドゥー」とささやくように）。
- 穴は指先ではなく、指の腹のやわらかいところで完全にふさぎましょう。
- オカリナの音程は息で変わります。弱く吹くと低く、強く吹くと高くなります。
- 低い音にはいちばんやさしい息が必要です。低い音が揺れたりピーと鳴ったりしたら、息を弱くして、下のほうの指が穴を完全にふさいでいるか確かめましょう。